

大津町 子ども憲章

みつめよう 話し合おう 行動しよう
未来を切り拓いていく主役は子どもたちです。
私たち大津町民は、すべての子どもたちの幸せを願い、
家庭、学校、地域が協力して愛情をもって育てることを
めざし、この憲章を定めます。

子ども憲章は、
不変のもの。
子どもを、
愛情をもって
認めてほしい—



大津町教育長 那須雪子

- ふるさと 大好き
- 子どもたちが、水と緑に恵まれた自然を大切にし、ふるさとの歴史と文化に誇りを持てるよう努めます。
 - みんな ともだち
 - 子どもたちが、世界の人々と友情をはぐくみ、夢と希望をもって生きていけるよう努めます。
 - こころ 豊かに
 - 子どもたちが、お互いの人権を尊重し、個性を認めあう豊かな感性をはぐくむよう努めます。
 - やさしく たくましく
 - 子どもたちが、やさしさの中で、知性を磨き心身をきたえて、主体性をもってたくましく生きていけるよう努めます。
 - のびのび しなやか
 - 子どもたちが、地域の中でのびのびと遊び、創造性に富み、しなやかに育つよう努めます。

教育には、不易と流行、つまり時代がどれだけ変わろうとも変えてはならないものと、時代に合わせた変化が必要なものがあります。「大津町子ども憲章」には、大津町の子どもとして基本的に備えてほしい不易のものが書いてあります。

大人は、家庭教育、学校教育、地域の社会教育の中で、子どもが育つ取り組みをしなくてはなりません。特に子ども憲章の一番目にある「ふるさと大好き」は、とても大切なことです。生まれ育った土地、自然、文化などに誇りが持てる子どもに育て

なければ、胸を張って生きていけないと思います。

そして、自分に誇りを持つことも大切です。私は自尊心を育てることを大事にしてほしいと訴え続けています。私は親が一番大事にしなければならぬのは子どもに愛情を注ぐことだと考えています。しかし、その愛情が子どもに伝わらないこともあります。愛情といっても抽象的で、難しい部分もあります。親の子どもに対する期待は高く、自分の子どもでなければ許せることでも、親としては許せない、受け入れることができない

いこともあります。親に分かってもらえないという気持ちがある。積み重なると、自尊心が失われ、劣等感を持ってしまいます。親には、ゆとりを持って子どもと向き合い、子どもを認め、受け入れてほしいと思います。

まずは、子どもを励ます気持ちで言葉かけをしてみてもいいでしょうか。方向性が分からなくても、実を結ぶのは難しいので、町が何を目標しているのかを知り、それをみんなで一緒に共有していけば良いと考えています。

土壌

第二章 子育ての

大津町の特産物「からいも」。からいもは、土の中で育ち、大きくなります。
良い土からは、良いからいもが、
良い町には、良い子どもたちが育ちます。
大津町の子育ての土壌には、どんな思いが詰まっているのでしょうか。
子どもたちは、宝の原石のようなものです。
磨けば光る原石を、宝石のように輝かせることができるかどうかは、私たち次第です。
大津の土壌ではどのような育ちをしているのかを見てください。